

## 【概要版】

# 男女共同参画に関する市民意識調査結果

## 調査の概要

### ●調査の目的

この調査は、平成 30 年度で計画期間の満了を迎える「第 2 次加東市男女共同参画プラン」の改定にあたり、市民の男女共同参画に関する意識、意向などを把握し、新計画策定の基礎資料とすることを目的としています。

### ●調査対象

平成 29 年 4 月 1 日現在、市内に居住する 18 歳以上の市民 4,000 人

### ●調査方法

配布：郵送

回収：郵送もしくはインターネットによる回答を、回答者が選択

### ●調査期間

平成 29 年 8 月 23 日（水）～平成 29 年 9 月 15 日（金）

### ●回収結果

発送数	回収数	うち無効票	有効回答数	有効回答率
4,000	1,490	0	1,490	37.3%

### ●報告書の見方

○本文中および図中に示した集計結果は、その質問の回答者数を基数（n）として算出し、百分率（%）で示しています。

○集計結果は小数点第 2 位で四捨五入しているため、回答比率の合計が 100.0%とならない場合があります。

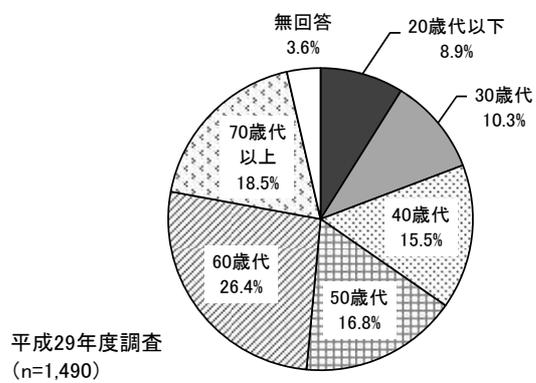
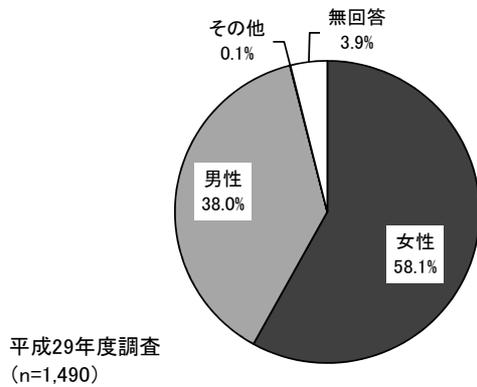
○複数回答を求めた質問では、回答比率の合計が 100.0%を超えることがあります。またグラフには以下の表示を付記しています。

・MA%（Multiple Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものすべてを選択する場合

・3LA%（3Limited Answer）：回答選択肢の中からあてはまるものを 3 つまで選択する場合

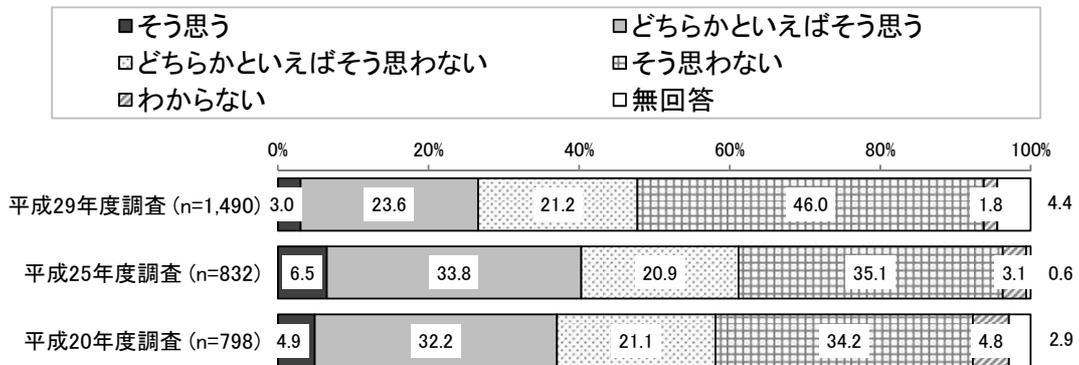
# 調査結果

## 1. 回答者の属性



## 2. 「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について

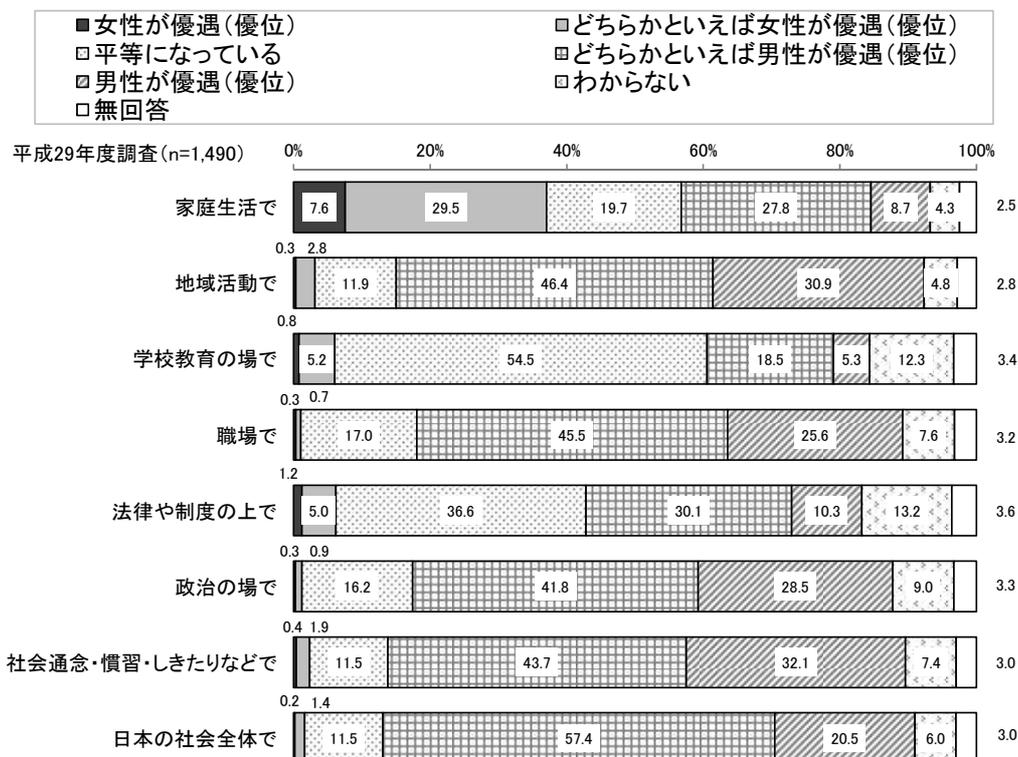
【設問】あなたは、「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について、どのように思いますか。（〇は1つ）



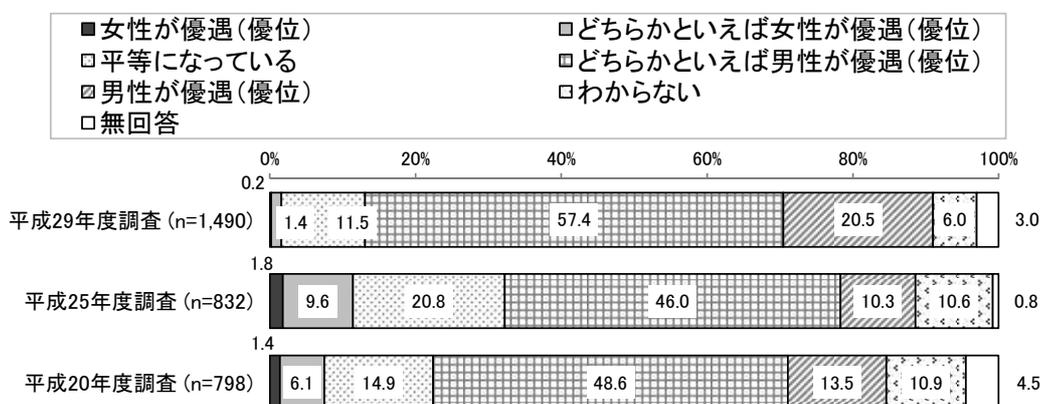
「男は外で働き、女は家庭を守るべき」という考え方について、賛成する人（『そう思う』人）は減少しています。また、反対する人（『そう思わない』人）が賛成する人を上回っています。

### 3. 現在の日本社会の男女の地位について

【設問】あなたは、現在の日本社会でみた場合の男女の地位についてどのように感じますか。（〇はそれぞれ1つ）



【平成 25 年度調査、平成 20 年度調査との比較 「日本社会全体で」】



※前回までの調査では、「あなたは、現代の社会における男女の地位について、どのように思いますか」とたずねています。  
 ※前回までの調査では、『女性が優遇(優位)』の部分は『女性が優遇されている』、『男性が優遇(優位)』の部分は『男性が優遇されている』となっています。

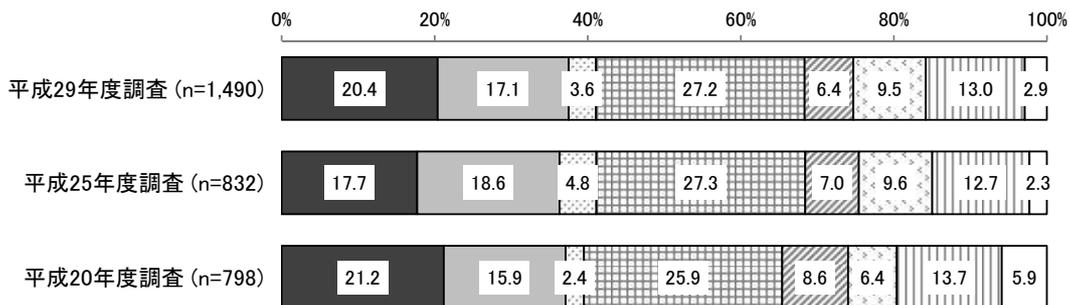
学校教育の場では『平等になっている』と感じている人が過半数いるものの、多くの場面で『男性が優遇』されていると感じている人が多くなっていることから、現在の「日本の社会全体」について、約8割の人が『男性が優遇』されている社会であると感じていることにつながっていると考えられます。

また、「日本の社会全体で」について、平成 25 年度調査、平成 20 年度調査と比べると、『平等になっている』が減少し、『男性が優遇』が増加しています。

#### 4. ワーク・ライフ・バランスについて（現状の生活と希望の生活）

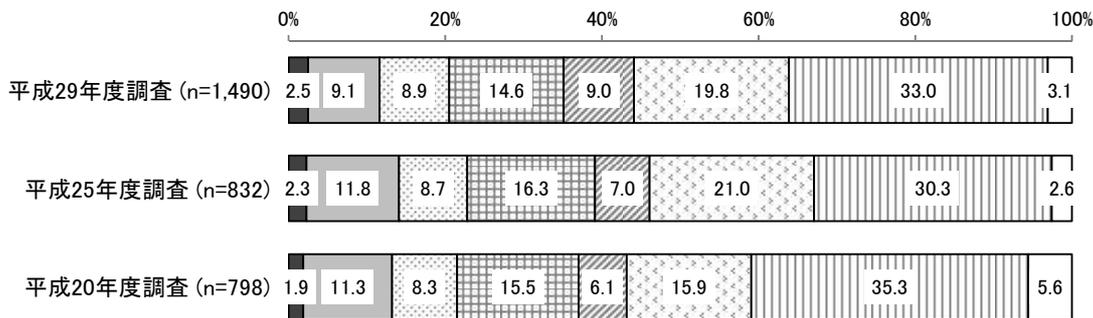
【設問】あなたの生活で、現状に近いものはどれですか。（〇は1つ）

- 「仕事」が中心の生活となっている
- 「家庭生活」が中心の生活となっている
- 「プライベートな時間」が中心の生活となっている
- 「仕事」と「家庭生活」がともに中心の生活となっている
- 「仕事」と「プライベートな時間」がともに生活の中心となっている
- 「家庭生活」と「プライベートな時間」がともに生活の中心となっている
- 「仕事」と「家庭生活」と「プライベートな時間」がともに生活の中心となっている
- 無回答



【設問】あなたの生活で、希望に近いものはどれですか。（〇は1つ）

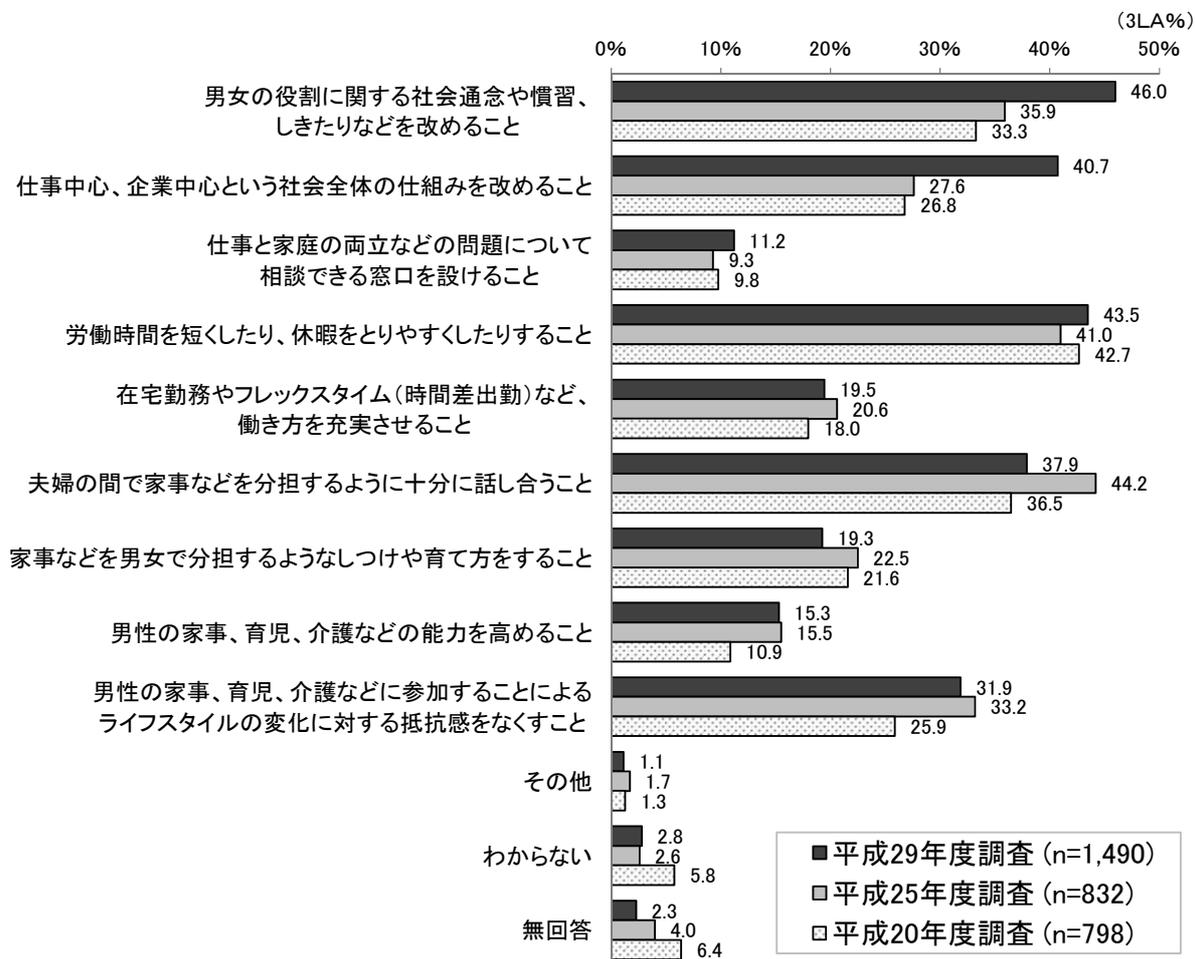
- 「仕事」を優先したい
- 「家庭生活」を優先したい
- 「プライベートな時間」を優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先したい
- 「仕事」と「プライベートな時間」をともに優先したい
- 「家庭生活」と「プライベートな時間」をともに優先したい
- 「仕事」と「家庭生活」と「プライベートな時間」をともに優先したい
- 無回答



現状では「仕事」や「家庭生活」が中心となっている人が多くなっていますが、希望としてはそれらの生活に加えて「プライベートな時間」も優先したいと考える人が多くなっています。

## 5. ワーク・ライフ・バランスの実現のために必要なこと

【設問】あなたは、女性と男性がともに働きながら家事、育児や教育、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。  
(〇は3つまで)



ワーク・ライフ・バランスの実現のためには、「夫婦間での話し合い」といった本人による解決よりも、「社会慣習や社会の仕組みを改めること」といった社会環境の変化が必要と考える人が増加していることがうかがえます。

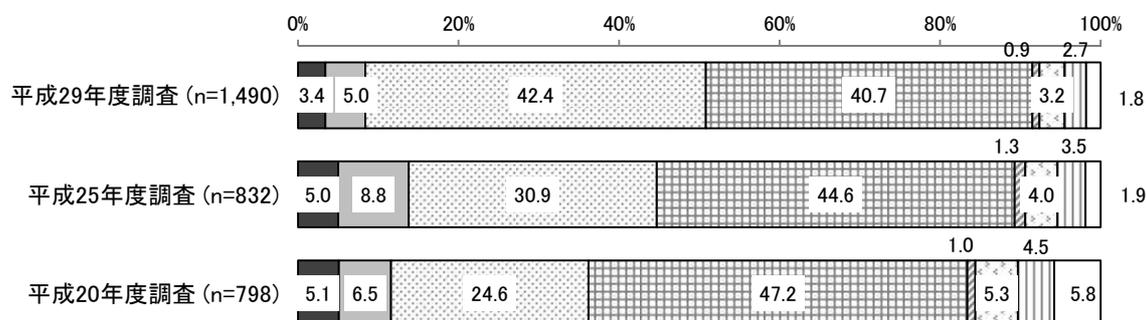
## 6. 女性が職業をもつことについて

【設問】あなたは、女性が職業（会社勤めなどの収入のある職業に限る）をもつことについてどのようにお考えですか。（〇は1つ）

※「結婚、出産にかかわらず、ずっと職業をもち続ける方がよい」は、前回までの調査では「結婚、出産にかかわらず、ずっと職業を続けるほうがよい」となっています。

※「子どもができたら職業をやめるが、子どもに手がかからなくなったら再び職業をもつ方がよい」は、前回までの調査では「子どもができたら職業をやめるが、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」となっています。

- 結婚するまでは、職業をもつ方がよい
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
- 結婚、出産にかかわらず、ずっと職業をもち続ける方がよい
- 子どもができたら職業をやめるが、子どもに手がかからなくなったら再び職業をもつ方がよい
- 女性は職業をもたない方がよい
- その他
- わからない
- 無回答

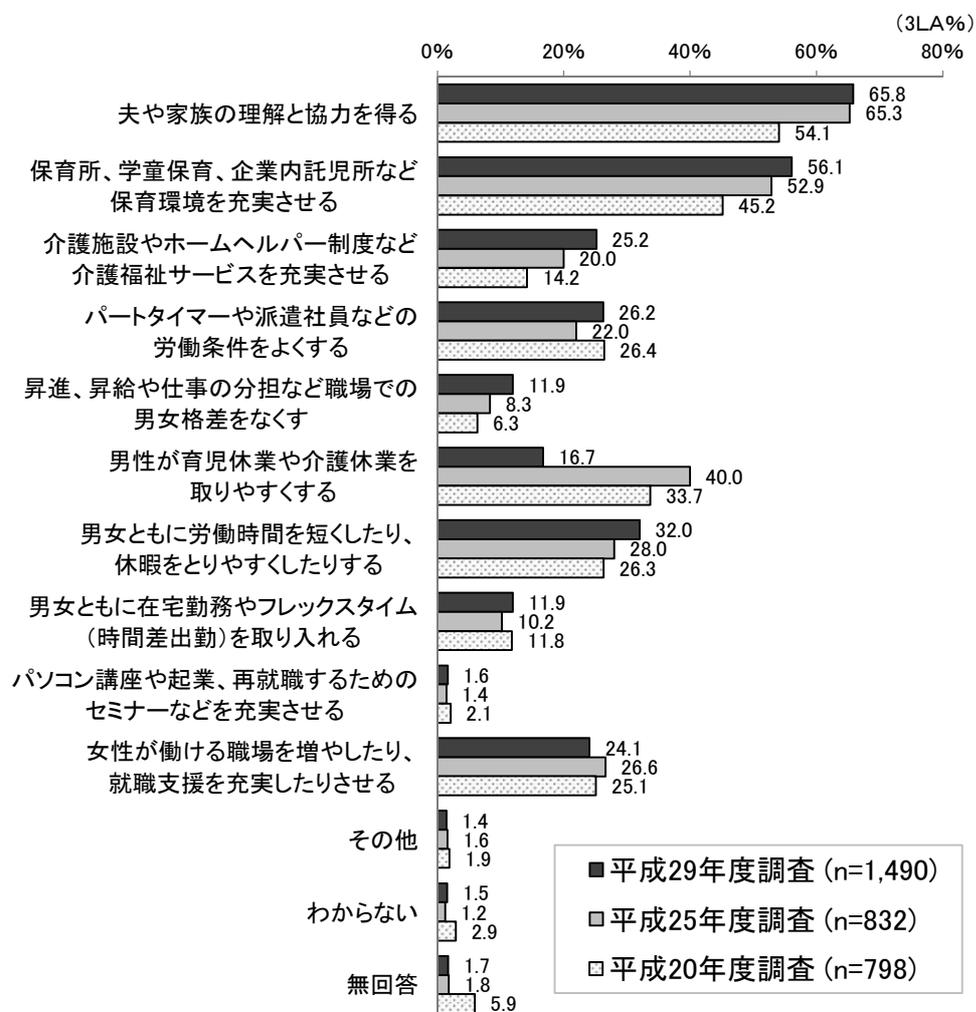


『結婚、出産にかかわらず、ずっと職業をもち続ける方がよい』と考える人が増加してきています。

## 7. 女性が働きやすい環境をつくるために必要なこと

【設問】あなたは、女性が働きやすい環境をつくるためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。（〇は3つまで）

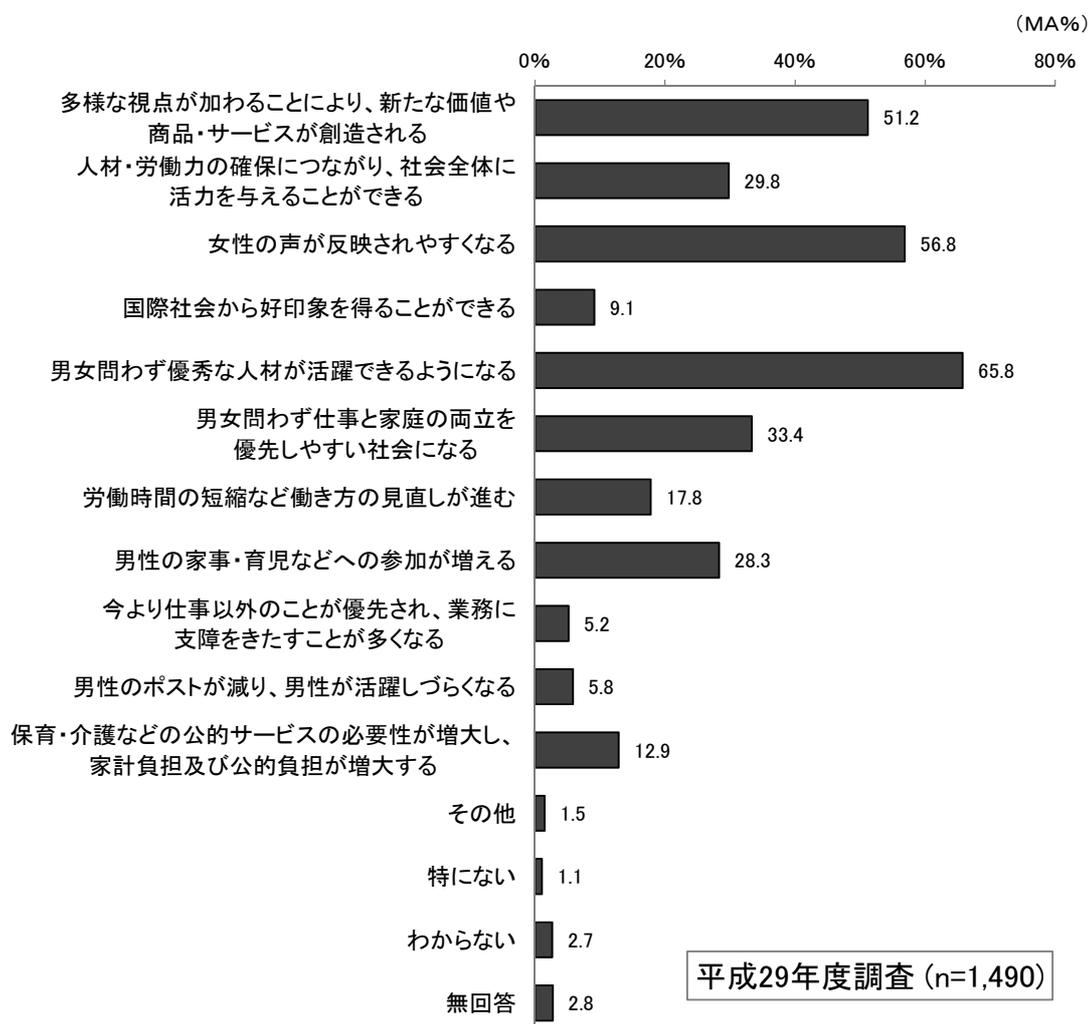
※「男性が育児休業や介護休業を取りやすくする」は、前回以前の調査では「育児休業や介護休業を取りやすくする」となっています。「男女ともに労働時間を短くしたり、休暇を取りやすくする」と「男女ともに在宅勤務やフレックスを取り入れる」は、前回以前の調査では文頭に「男女ともに」がありませんでした。



女性が働きやすい環境をつくるために必要なことをたずねたところ、『夫や家族の理解と協力を得る』が65.8%と最も多く、次いで『保育所、学童保育、企業内託児所など保育環境を充実させる』が56.1%、『男女ともに労働時間を短くしたり、休暇をとりやすくしたりする』が32.0%などとなっています。

## 8. 女性のリーダーの増加による影響

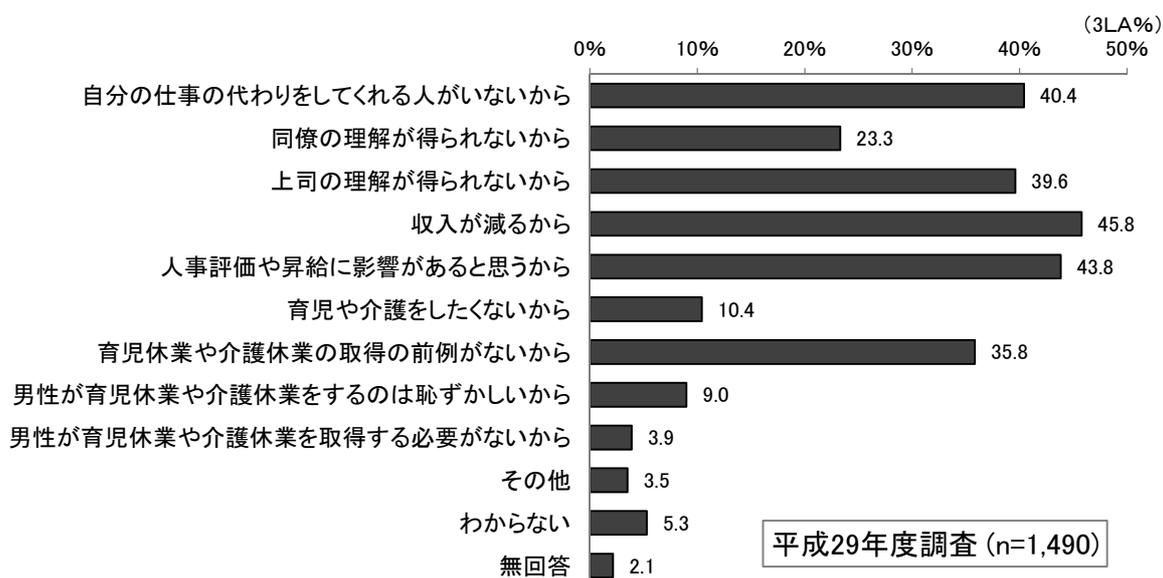
【設問】 政治・経済・地域などの各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。（〇はいくつでも）



女性のリーダーの増加によって、「性別に関わらず個人の能力を評価する社会や、多様性のある社会づくりに良い影響がある」と考える人が多くなっています。

## 9. 男性の育児休業や介護休業の取得が進まない理由について

【設問】 男性の育児休業や介護休業等の取得が進まない状況ですが、それはどのような理由からだと思えますか。（〇は3つまで）

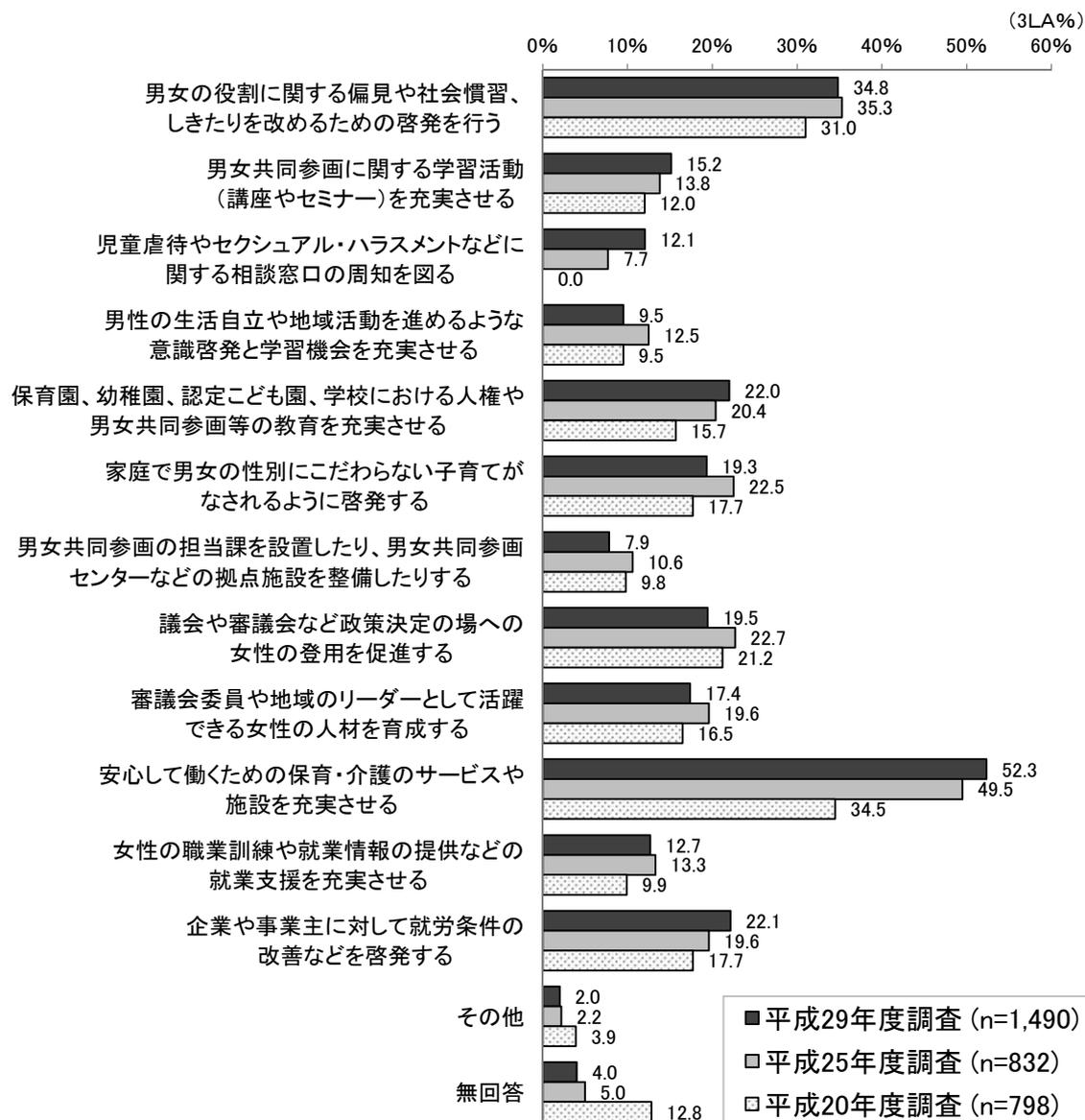


男性の育児休業や介護休業の取得が進まないのは、「収入の減少」が理由と考える人が多くなっていますが、『上司の理解が得られないから』、『人事評価や昇給に影響があると思うから』、『自分の仕事の代わりにしてくれる人がいないから』、「前例がない」といった、勤務先の理解不足や協力不足も育児休業等の取得を阻む要因となっていることがうかがえます。

## 10. 男女共同参画社会の実現に向けて市が力を入れるべきこと

【設問】あなたは、男女共同参画社会を実現するためには、今後、加東市では特にどのようなことに力を入れるとよいと思いますか。（〇は3つまで）

※「児童虐待やセクシュアル・ハラスメントなどに関する相談窓口の周知を図る」は、前回までの調査では「児童虐待やセクシュアル・ハラスメントなどに関する女性の相談窓口を充実させる」となっています。



男女共同参画社会の実現には、子育てや介護を、社会全体で支える仕組みを充実させることが重要と考える人が最も多くなっています。

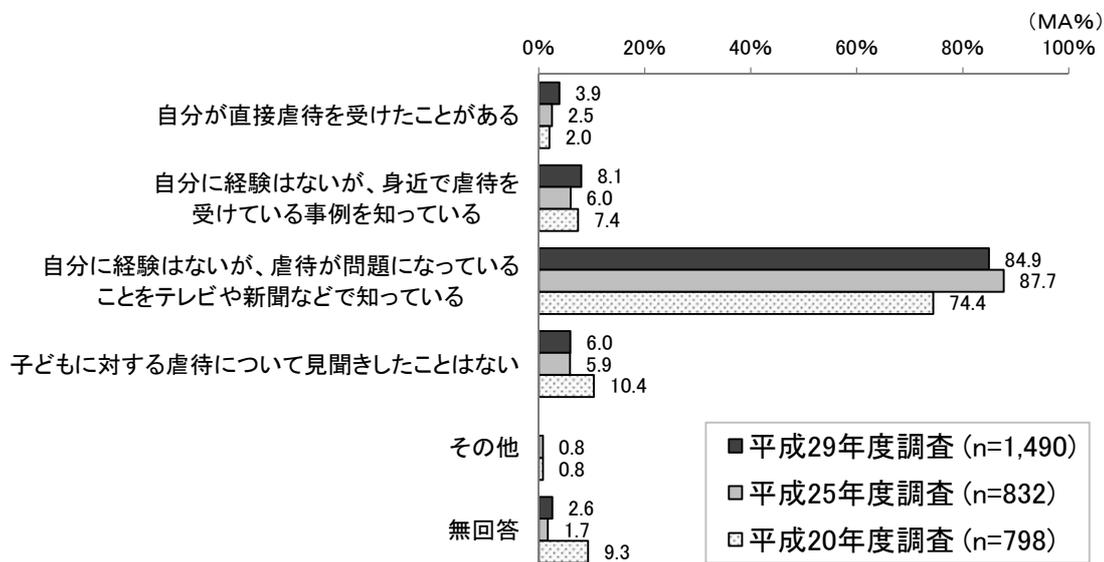
一方、「社会慣習等の変化」が重要と考える人も多いことから、社会や市民への啓発などの取り組みを、長期的な視点で継続して行うことが重要であると考えられます。

## 11. 虐待、セクシュアル・ハラスメントの経験等

### (1) 子どもに対する虐待の経験等

【設問】 子どもに対する虐待について、あなたが直接被害を受けたり、見聞きしたりしたことがありますか。(〇はいくつでも)

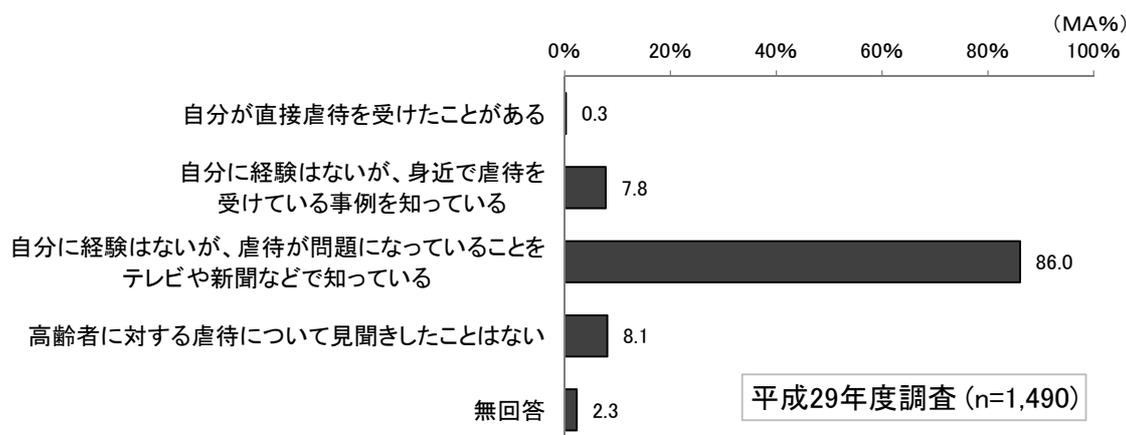
※今回の調査には「その他」はありません。



「自分が虐待を受けた経験のある」人や、「身近で虐待事例を知っている」人が増加しています。

### (2) 高齢者に対する虐待の経験等

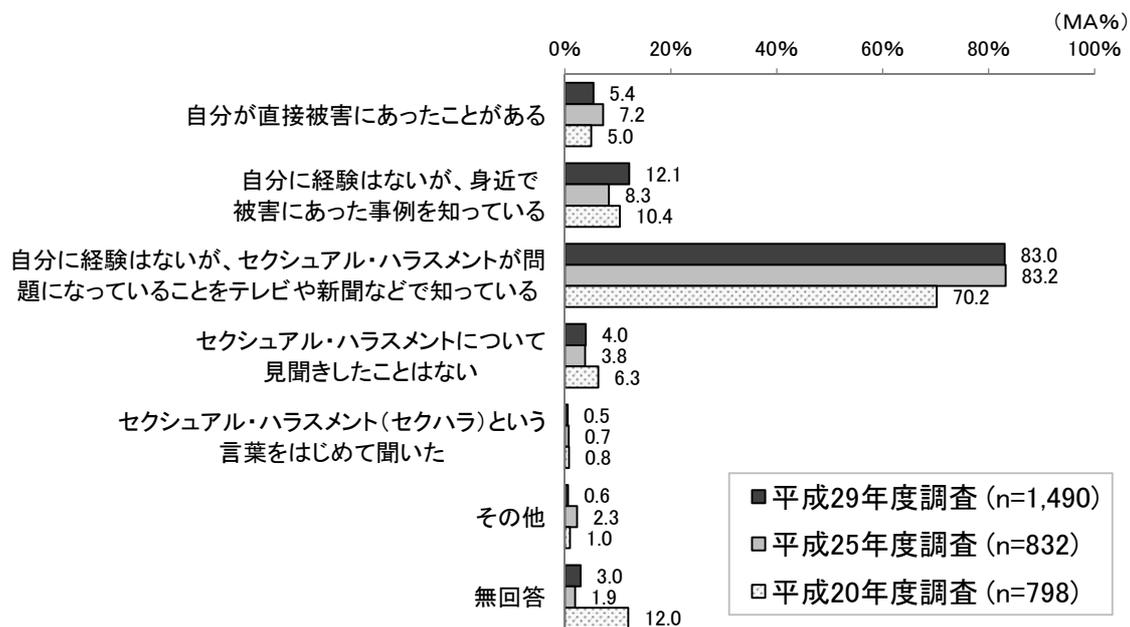
【設問】 高齢者に対する虐待について、あなたが直接被害をうけたり、見聞きしたりしたことがありますか。(〇はいくつでも)



「自分が虐待を受けた経験のある」人や、「身近で虐待事例を知っている」人があります。

### (3) セクシュアル・ハラスメントの経験等

【設問】あなたは、セクシュアル・ハラスメントについて、経験をしたり、見聞きしたりしたことがありますか。(〇はいくつでも)



『自分が直接被害にあったことがある』人は5.4%となっており、平成25年度調査と比べるとやや減少しています。